

平成 26 年度

東京都教職員研修センター紀要

第 14 号

平成 27 年 3 月

はじめに

我が国では、社会・経済が激しく変化する中で、教育を取り巻く状況も複雑化・多様化しています。次代を担う子供たちが、これからの社会を心豊かに、たくましく生き抜いていくためには、知識・技能の習得はもとより、それらを活用し、自ら課題を見付け、他者と協力して課題を解決していく力を身に付けていくことが求められています。

東京都では、「世界一の都市・東京」の実現を目指し、「東京都長期ビジョン」（平成 26 年 12 月）を策定し、この中で「世界をリードするグローバル都市の実現」のために「東京、そして日本を支える人材の育成」を目標として掲げ、おおむね 10 年後の東京都の子供たちの将来像を示しています。

また、東京都教育委員会では、「社会全体で子供の『知』『徳』『体』を育み、グローバル化の進展など変化の激しい時代における、自ら学び考え行動する力や社会の発展に貢献する力を培う」ことを基本理念とし「東京都教育ビジョン（第 3 次）」（平成 25 年 4 月）を策定しました。

このような中、東京都教職員研修センターでは、平成 26 年度における教育課題研究として、「新たな学びを支える教科等指導の工夫」、「これからの社会の中でたくましく生き抜く力を培うためのカリキュラム開発（1 年次）」、「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる指導の工夫（1 年次）」の 3 本の研究に取り組みました。本紀要は、その研究成果を集約したものです。

「新たな学びを支える教科等指導の工夫」については、変化の激しい社会に対応して求められる資質・能力を言語活動や協働的な学習活動において育む、学習過程等の具体的な指導について提案しています。

「これからの社会の中でたくましく生き抜く力を培うためのカリキュラム開発（1 年次）」については、これからの社会で求められる児童・生徒に育成すべき資質・能力を設定し、多様な教育課題の目標や内容を整理し、育成すべき資質・能力が身に付けられるような新たなカリキュラム開発に取り組みました。

「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる指導の工夫（1 年次）」については、学力低位の児童・生徒の状況を把握し、一人一人の児童・生徒のつまずきに応じた授業や組織的な個に応じた指導について提案しています。

各教育委員会や学校におかれましては、本紀要に掲載した研究内容等を、教育課程の工夫・改善や教員の資質・能力の向上、家庭や地域に対する啓発など、教育課題の解決に向けて活用していただければ幸いです。

結びに、当センターの教育課題研究の推進に当たり、研究調査委員、関係教育委員会をはじめ、様々な調査に御協力いただいた各区市町村教育委員会や学校の先生方に御礼を申し上げます。

平成 27 年 3 月

東京都教職員研修センター所長
高野 敬 三

目 次

- 新たな学びを支える教科等指導の工夫
～「21 世紀型能力」を育むための様々な言語活動や協働的な学習活動～
..... 3

- これからの社会の中で
たくましく生き抜く力を培うためのカリキュラム開発（1 年次）
..... 39

- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる指導の工夫（1 年次）
..... 75